

佐伯史談

第二一〇号

「郷土史研究」誌
通算一四二号

昭和五十四年十月二十一日

佐伯史談 会
(事務局) 佐伯市大字稻垣字龍護寺羽柴

掲題

歴史民俗資料館の建設

佐伯史談会

会長 高木 嘉吉

去る八月二十五日、私をはじめ羽柴・平川・岩田・古藤田・柴矢の五名は、佐伯史談会を代表して、佐伯市役所市長室に大鶴市長を訪問した。

大鶴新市長に表敬訪問しようということは、選後直後から考え、みんなてれおつていたのであるが、市長多忙のためその機会を得ず、心ならずも延引を重ねていて、つと実現したわけである。

幸いに懇談の時間が持てたので、まず私から、文化財の保護・文化団体の育成など、文化行政について一層の懇話をお願ひし、羽柴副会長をはじめ、其の他諸君からも歴史民俗資料館の建設、山際通りの武家屋敷町並み保存等について要望した。

これに對して大鶴市長は、今ある裁判所・検察庁を移転し、その跡地を公園化して郷土史料館を建設する計画であると語られた。私達は、毛利家の旭大を資料也、佐

伯の全域にわたる歴史民俗資料を収めて、その保存と活用を以てするべく、敷地・建物などモっと大規模のものが必要であるので、更に考慮されるようお願いした。山際通りの武家屋敷の町並み及び保存についても、前向きな姿勢で考えて見ようとのことであった。このことについては、「機関誌「佐伯史談」第一一九号で羽柴副会長が、「城下町佐伯三題」として、その歴史、文化的意義と現状を述べている。

三の丸から山際通りを経て養賢寺に至る一帯は、毛利藩三百年の歴史が凝集する所、と言つても過言ではない。

この「歴史民俗資料館の建設」については、昨五十二年十二月二十日付でその要望書を作成し、史談会の組織決定して、池田前市長に提出した。しかし程なく市長選が及びずり、

本号の主な内容

- 1 歴史民俗資料館の建設 (高木嘉吉)
- 2 組合 佐伯の新しい顔
- 3 研究 毛利長柄重政と吉母 (高木嘉吉)
- 4 研究 赤坂のこぼれ (高木嘉吉)
- 5 史料 並町をしのぶ
- 6 史料 徳兵衛の裁判 (高木嘉吉)
- 7 研究 佐伯と回水田 (高木嘉吉)
- 8 探訪 推葉 (高木嘉吉)
- 9 研究 中世佐伯の町 (高木嘉吉)
- 10 研究 南洲佐伯神社 (高木嘉吉)
- 11 記録 小田頭首塚 (高木嘉吉)
- 12 小伝 天武秋月新太郎
- 13 図書紹介 青舟外